

白藍塾オリジナル

2017入試小論文分析&解答のヒント

2017年4月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

●慶応・環境情報学部

今年度は、例年と比べてさらに変則的な出題となった。資料の数は多いが、いずれも SFC の実際の研究会の内容を紹介した文章。タイプとしては、2007 年度の問題 (SFC の研究プロジェクトを紹介した資料を参考に、SFC の新しい研究プロジェクトを提案させるというもの) に近い。従来のプレゼン型以上に、ほとんど志望理由書に近い課題内容だが、あくまでも小論文なので、意欲や人間性ではなく、論理性や思考力が試されていることを忘れてはいけない。

設問は4つあるが、すべて連動しているので、セットで考える必要がある。

まず、設問1は、環境情報学部に入學して解決したい課題、発見したいことを説明する問題。もちろん、単なる個人的な関心事ではなく、社会的に価値のある課題を考える必要がある。基本型Aを使ってまとめるとよい。

だが、これは、次の設問2 (資料で紹介されている10の研究会のうち、履修する4つを選ぶ) と合わせて考えるほうがよいだろう。設問2も、自分の興味を引くものをばらばらに4つ選んでも意味がない。4つの研究会の内容が互いに関連しながら、設問1の答えとなる課題の解決に役立つようではなくてはならない。

一例として、「高齢化の現状を踏まえて、地域の高齢者を活用して地域の活性化を図る」という課題を考えるとする (最初に課題の内容を明示しているのは、あくまで説明の便宜のため。実際には、4つの研究会を選んだ後に、課題の内容が決まる場合もありうる)。

まず、「一ノ瀬友博研究会」で、地域を活性化するための地域情報化などを研究する。「小熊英二研究会」では、地域の過去と現在を比較して、活性化のためのヒントをその地域の歴史の中を探る。また、「秋山美紀研究会」で、地域活性化を担う高齢者に元気になってもらうためのコミュニケーションのあり方を学び、「中西泰人研究会」では、研究に際してそうした高齢者と親密なコミュニケーションをとるためのインタラクティブなシステムづくりを学ぶ。

こんなふうに、各研究会の研究内容を見て、関連づけられそうなものを選びつつ、同時にそこからどんな課題が考えられるかを考えるとよい。多少強引ではあっても (実際、4つもの独立した研究分野を関連づけるのはかなりの難問だ)、研究内容や研究手段、方法論など、何らかの関連づけが論理的に行なわれていれば、それで十分だ。

設問3は、そうした関連づけを文章で説明する問題。800字と、字数は多いが、これを四部構成で書くのは難しい。これも基本型Aを応用して、まず最初に、課題の内容と4つの研究会

の研究内容との関連をできるだけ簡潔に説明する(先ほどの例の説明程度でよい)。その上で、それぞれの研究会の研究内容が課題の解決にどう役立つのか、もう少し詳しく説明していくとよいだろう。

設問4は、設問3の内容を図で表わす問題。もちろん書き方は自由だが、最も簡単なのは、次のようなものだ。中央とそれを取り巻く四方に合計5つの空欄を書く。そして、中央に解決したい課題の内容を、それを取り巻く四方に4つの研究会の研究内容を書き込み、矢印などで結びつけた上で、各々の関連性を簡潔に文字で説明する。この程度で十分だろう。

◎執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179) <http://www.hakuranjuku.co.jp>